



資源循環

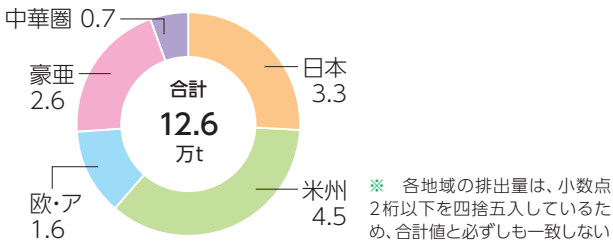
埋立廃棄物ゼロを推進し、循環型社会形成に貢献します。

● 資源有効活用の推進

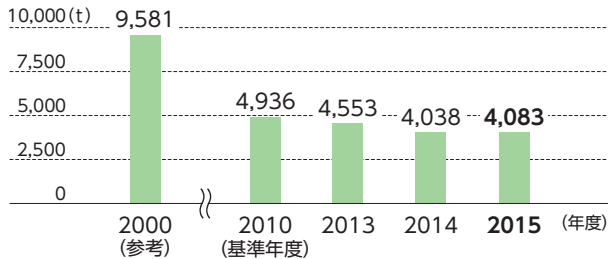
排出物量の削減活動

グローバルにおける2015年度の排出物量は12.6万トンとなりました。今後も各地域の特性を考慮しながら、さらなる削減活動を進めていきます。また国内矢崎グループにおける廃棄物量は、分別による有価物化や不要となった仕器の再利用などにより、2010年度比17.3%減の4,083トンとなりました。

地域別の排出物量(万t)



廃棄物量の推移(国内)

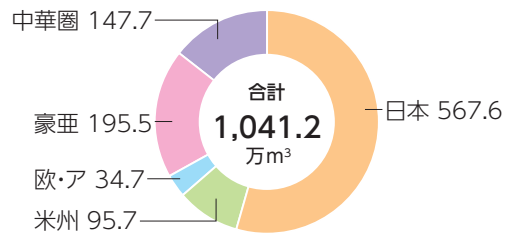


水資源保全の取り組み

2003年度から水使用量の削減活動に取り組んでいます。具体的には、生産事業所において雨水の活用や冷却水の循環利用を推進しました。オフィスでは給湯室やトイレにおいて地道な節水活動を継続しています。

グローバルにおける2015年度の水使用量は1,041万 m^3 となり、前年度比3.3%の増加となりました。これは、生産量が増加したことに起因しています。売上高原単位は0.06万 m^3 /億円となり、前年度と比較して3.5%削減しました。今後は『矢崎環境取り組みプラン』に取り入れ、グローバルでより積極的な活動を推進する予定です。

地域別の水使用量(万 m^3)



Topics リサイクルの実践により従業員の意識も向上

生ゴミのコンポスト化の取り組み

インドネシアでは生ゴミをコンポスト化する取り組みが進められています。JAI(インドネシア)では、2016年4月27日にBiopori holesづくりに取り組みました。Biopori holesは土を掘って生ゴミを埋めることで、堆肥となり土壌を豊かにします。また、水の吸収力を高め、雨季の洪水を防ぐ効果も期待されています。



参加者たち



Biopori holes

排水リサイクルの推進

EMI(フィリピン)では、独自の排水処理施設を設けて排水のリサイクルに取り組んでいます。排水処理施設で処理された水は、貯水槽で保管されますが、今まではその容量が2 m^3 のみであったため、まだまだリサイクルが可能な水が過剰分として排水されていました。そこで、20 m^3 を保持できる処理タンクを建設し、事業所内の植物の水やりやトイレなどで再利用することを可能としました。この活動によって、年間840 m^3 の水使用量を削減しました。



排水処理施設の様子